

保育所版サービス内容評価調査票

評価項目	着眼点	実施の有無	着眼点に係る確認事項・書類	評点	コメント(評点の根拠やその他事業所独自の取り組み・工夫)
A-1 保育内容					
A-1-(1) 全体的な計画の作成					
A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	全体的な計画は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて作成している。	有	全体的な計画	a	その他、認定こども園教育保育要領や全国保育所倫理綱領も踏まえ子どもの発達を理解して作成している。
	全体的な計画は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて作成している。	有	全体的な計画・職員会議議事録	a	年度初めに園の教育・保育理念や方針等の読み合わせ(その意味することを含む)を行い、全体的な計画を作成している。
	全体的な計画は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して作成している。	有	全体的な計画・重要事項説明書・保育時間申出書	a	子どもの特性や地域の実態、保護者の就労時間や家庭状況なども考慮し作成している。
	全体的な計画は、保育に関わる職員が参画して作成している。	有	全体的な計画・職員会議議事録	a	子どもの発達過程に関しては主に各クラス担任が前後の連続性を踏まえて作成し、年度ごとに重点的に取り組む保育の柱については、職員と意見を交わし決定している。
	全体的な計画は、定期的に評価を行い、次の作成に生かしている。	有	全体的な計画・園評価・保護者アンケート	a	クラスごとの話し合いを得て運営委員会で年度末に評価反省を行い次年度につなげている。
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開					

保育所版サービス内容評価調査票

評価項目	着眼点	実施の有無	着眼点に係る確認事項・書類	評点	コメント(評点の根拠やその他事業所独自の取り組み・工夫)
A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境は、常に適切な状態に保持している。	有	個別空調や扇風機、カーテン等	a	個別空調設備により、温度や湿度計も設定されており、適切な状態を把握・調整できるようになっている。
	保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。	有	入園のしおり・大和善隣館マニュアル・保健年間計画・園だより・安全点検	a	消毒をしたり、毎月の安全点検をしたりしている。寝具に関しては家庭での洗濯や日光消毒を毎週お願いしている。
	家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。	有	指導計画	a	保育者間で話し合い、環境設定の見直しをする。
	一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。	有	指導計画	a	衝立や家具などで仕切り、コーナーを設けるなどして一人ひとりが安心して落ち着ける場所を作っている。
	食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。	有	指導計画	a	食事や睡眠の場所を別に設けることで、落ち着いた空間が確保されている。3歳以上児は専用のランチルームで食事を摂っている。又、睡眠はここに専用のベッドを使用している。
	手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。	有	保健年間計画	a	毎日掃除をし清潔を保っている。また、子どもたちの成長に合った高さの設備を用いている。
	子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。	有	個人記録・発達チェック・全体の計画・指導計画・人権擁護のためのセルフチェックリスト・自己評価のチェックリスト	a	生育歴や入園までの集団生活の経験年数、家庭環境などを把握し、個人記録や発達チェックを参考にし家庭と連携して保育を行ったり、職員間で共有し話し合いをしている

保育所版サービス内容評価調査票

評価項目	着眼点	実施の有無	着眼点に係る確認事項・書類	評点	コメント(評点の根拠やその他事業所独自の取り組み・工夫)
A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。	有	個人記録・全体的な計画・指導計画・自己評価のチェックリスト	a	伝えたいわかってもらいたいという気持ちを十分に受け止め、信頼関係を築き丁寧に言葉をかけたり応えたりして関わっている。
	自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。	有	個人記録・全体的な計画・指導計画・自己評価のチェックリスト	a	子ども一人一人の興味あることを理解し、一緒に遊んだり経験する中で子どもの感じ取ったことに共感し関わっている。
	子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。	有	個人記録・全体的な計画・指導計画・自己評価のチェックリスト	a	様々な欲求や思いを受け止めながら安心できる安定した関係を築いていくことを心掛けている。
	子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。	有	園内研修・自己評価のチェックリスト	a	年齢や発達に応じた言葉を使って丁寧に対応している。
	せかず言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている	有	園内研修・人権擁護のためのセルフチェックリスト・自己評価のチェックリスト	a	園内研修などで不適切保育についての話し合いをしたりして学びを深めながら意識して教育保育にあたっている。
A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。	有	個人記録・指導計画・自己評価のチェックリスト	a	家庭での生活リズム、登園時間など一人一人異なるためそれらを把握する。未満児組の朝のおやつは朝食時間や食べたいという子どもの思いに応じて用意している。
	基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。	有	個人記録・指導計画・自己評価のチェックリスト	a	子どものやりたいという気持ちを大切に、自分でできた喜びを感じられるような、さりげない援助を行っている。
	基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。	有	個人記録・指導計画・人権擁護のためのセルフチェックリスト・自己評価のチェックリスト	a	子ども一人一人のペースに合わせて、声かけや援助を行っている。
	一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。	有	個人記録・指導計画	a	活動的な時間の後には落ち着いた遊びができる時間を入れるなど、生活の中で静と動の部分を計画的に取り入れている。
	基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。	有	個人記録・指導計画・自己評価のチェックリスト	a	担任同士で、子ども一人一人について話し合いをする時間を設けている。そこで一人一人に合った援助を話し合い共通理解している。また、支援の必要な子に対しては個別の記録を作成し、園全体で共有している。
	子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。	有	全体的な計画・指導計画・個人記録・自己評価のチェックリスト	a	未満児組では、保育室内で遊びのコーナーと食事のコーナーを分けて設定し、お腹がすいたらおやつ食べに行く、終わったらまた遊びに戻るという環境を作っている。3歳以上児では、好きな遊びのコーナーを選んで遊んだり、おなかがすいた子から順にランチルームに食事をしに行ったりしている。
	子どもが自発性を発揮できるよう援助している。	有	全体的な計画・指導計画・個人記録・自己評価のチェックリスト	a	運動会や発表会などの行事では、子どもの得意なことややりたいことなど子どもからの意見を取り入れ、一人一人が取り組みの中で十分に自発性が発揮できるようにしている。

保育所版サービス内容評価調査票

評価項目	着眼点	実施の有無	着眼点に係る確認事項・書類	評点	コメント(評点の根拠やその他事業所独自の取り組み・工夫)
A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。	有	全体的な計画・指導計画・個人記録・自己評価のチェックリスト	a	室内でも様々な運動遊具を設定し、自ら体を動かして遊べるようにしている。未満児クラスではランチルームの空き時間を利用して、その場所を運動あそびのスペースとして活用している。
	戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。	有	全体的な計画・指導計画・自己評価のチェックリスト	a	天気の良い日には、積極的に園庭や近辺散歩など戸外遊びの時間を設けている。
	生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。	有	全体的な計画・指導計画・個人記録・自己評価のチェックリスト	a	朝の自由遊びでは、3歳以上児は自分のしたい遊びのエリアに行って遊ぶ時間を作り、ランチルームでは一緒に食事をとるなど、同年齢だけでなく、異年齢での交流する場を作り、年上児の遊びを真似して色々なことに挑戦したり、年下児には優しく接したりという経験ができるようにしている。
	子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。	有	全体的な計画・指導計画・個人記録・自己評価のチェックリスト	a	様々な遊びの中で、子どもたち同士で考え、意見を出し合い、共通の目的に向かって協力して遊びを楽しめるよう、時には意見をまとめたり調整したりしながら自分たちで取り組めたことの達成感が味わえるようにしている。
	社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。	有	全体的な計画・指導計画・個人記録・自己評価のチェックリスト	a	遊びや生活の中で、様々な人と関わりながら相手の思いに気づいたり、ルールを守ることの大切さを知ったりする経験を積んでいるため、それらの機会を捉えるようにしている。
	身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。	有	全体的な計画・指導計画・個人記録・自己評価のチェックリスト	a	今年度園庭の横に農園が完成した。そこには、四季折々の木を植え、田んぼや蓮池、畑があります。4つの畑(春、夏、秋、冬)で様々な野菜などを栽培している。また、散歩やバス園外も取り入れている。
	地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。	有	全体的な計画・指導計画・個人記録・自己評価のチェックリスト	a	地域の人に地域伝統文化である太鼓やがめつき音頭を習ったり、梅もぎや柿の葉取りなどの体験をさせていただいたりしている。稲作りでは、地域の農家の方の協力・指導を得たり、就学を見据え通学路の見守り隊の方との交流の機会を設けたりしている。
	様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。	有	全体的な計画・指導計画・個人記録・自己評価のチェックリスト	a	普段の遊びの中で、制作、リズム、歌、ごっこ遊びなどを行い、様々な表現を楽しんでいる。
A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。	有	年間指導計画・個人記録・自己評価のチェックリスト	a	食事や睡眠を毎日同じような場所に設けることで、安心した生活や空間が確保できるようにしている。また、様々な形、色、手触りなどの感覚の働きが豊かになるような環境に触れられるようにしている。
	0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係(情緒の安定)が持てるよう配慮している。	有	年間指導計画・個人記録・全体の計画・自己評価のチェックリスト	a	一人一人の生理的欲求や心理的欲求を丁寧に受け止め、基本的信頼感が育まれていくよう愛情を注ぎ接している。
	子どもの表情を大切にし、応答的な関わりをしている。	有	年間指導計画・個人記録・自己評価のチェックリスト	a	子どもと目を合わせ喃語等に優しく応えたり抱っこや体に触れたりしながら関わっている。
	0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている	有	年間指導計画・個人記録・自己評価のチェックリスト	a	身近な生活用品や玩具を用意し、興味や好奇心をもち触ってみたいと感じるような環境を用意する。

保育所版サービス内容評価調査票

評価項目	着眼点	実施の有無	着眼点に係る確認事項・書類	評点	コメント(評点の根拠やその他事業所独自の取り組み・工夫)
	0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。	有	年間指導計画・個人記録・発達チェック・ドキュメンテーション・クラスだより・自己評価のチェックリスト	a	身体的・社会的・精神的発達の特徴を踏まえ、保育の狙いや内容について保育者間で話し合っている。
	0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。	有	年間指導計画・個人記録・連絡帳・ドキュメンテーション・クラスだより・自己評価のチェックリスト	a	園での毎日の生活や遊びの状況について、連絡帳やドキュメンテーション等で伝えたり、家庭の状況を口頭や連絡帳を通してやり取りをしたりして保護者との相互理解を図っている。
A-1-(2)-⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。	有	年間指導計画・個人記録・園内研修・クラスだより・人権擁護のチェックリスト	a	食事や手洗い、簡単な着脱など子どもが自分でしようという思いを受け止め、できた時の喜びや達成感などが感じられるように関わっている。
	探索活動が十分に行えるような環境を整備している。	有	年間指導計画・個人記録・クラスだより	a	保育室や未満児専用の園庭の他、ランチルームの空き時間を利用して、広い空間での遊びが十分行えるように環境を整えている。
	子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。	有	年間指導計画・個人記録	a	戸外や室内などで興味や好奇心を持ったものに対して積極的に関わろうとする気持ちを大切にし、安全に配慮しながら自由な探索活動を保障している。
	子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。	有	全体の計画・年間指導計画・指導計画	a	一人ひとりの発達を理解し様々な場面で子どもたちの気持ちを受け止め、自我の芽生えを大切にしながら関わる。
	保育士等が、友だちとの関わりの仲立ちをしている。	有	全体の計画・年間指導計画・指導計画・クラスだより	a	双方の思いを受け止めながら気持ちを代弁したり一緒に遊ぶことの楽しさが感じられるように関わったりする。
	様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。	有	全体の計画・年間指導計画・指導計画・クラスだより・園だより	a	園庭に出た際には、自然と年上児が寄って来て手を引いたり顔をのぞき込んだりなどかわいがる姿が見られる。また、食育活動や毎日の健康観察の際には調理担当者や看護師が関わっている。
	一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。	有	連絡帳・年間指導計画・指導計画・育児相談ケース記録・ドキュメンテーション	a	一人ひとりの子どもたちの様子や状況を登園や降園時に直接話したり、連絡帳に記入したり、日々の活動の様子や人との関わりの様子などをドキュメンテーションで知らせたりしている。育児相談にも積極的に応じている。
A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。	有	全体的な計画・自己評価のチェックリスト	a	日常生活で経験したことをごっこ遊びとして取り入れることを好むため、それらの遊びを十分行える素材や環境を用意する。また、保育者も一緒になって遊びモデルとなって遊び方を伝えたり友だちとの関わり方について知らせたりしている。
	4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。	有	全体的な計画・自己評価のチェックリスト	a	想像力が豊かになり、様々なものを作ったりイメージしたことを言葉や遊びの中で表現することを好むため、それらの遊びを十分行える素材や環境を用意する。その中で、自分自身で思い通りにできないことや友だちとのけんかも増えてくるため、双方の気持ちをつなげながら気持ちを自己を振り返ったり治めたりなどの社会性が育まれるよう関わっている。
	5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。	有	全体的な計画・自己評価のチェックリスト	a	目的に向かって集団で行動したり取り組むことが多くなる。友だちと試行錯誤している時は見守ったり必要に応じて話し合いの場を設けたりして、自分の考えや意見を伝え合えるようにしている。また一人一人の良さを認めたりルールを守ることの大切さに気づいたりできるような場を捉えて伝えたり確認し合ったりしている。

保育所版サービス内容評価調査票

評価項目	着眼点	実施の有無	着眼点に係る確認事項・書類	評点	コメント(評点の根拠やその他事業所独自の取り組み・工夫)
	子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。	有	地域情報誌・ドキュメンテーション・クラスだより	a	保護者には主にクラスだよりやドキュメンテーションでお伝えし、地域には年4回発行の情報誌を回覧している。地元小学校には情報誌を届けている。
A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。	有	新築工事資料	a	階段には転落防止柵を設置している。また、玄関スロープも設けている。
	障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。	有	個別支援計画・中期長期指導計画・個別記録	a	個々に応じて個別記録を作成し、クラス内で話し合い計画書を作成している。
	計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。	有	個別支援計画・中期長期指導計画・個別記録	a	計画を元に職員間で話し合い、必要な手立てを考え保育を行っている。また、発達支援センターの助言も受けている。
	子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。	有	個別支援計画・中期長期指導計画・個別記録	a	お互いに優しくしたり思いやりやったりすることが後には人の役に立つ喜びとして感じられるようになる。そのような姿を捉えたときには保育者も共に喜んでいる。
	保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。	有	連絡帳・支援相談記録	a	連絡帳や送迎時にコミュニケーションを密に取るようにしている。また、時によっては面談を実施している。
	必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。	有	支援相談記録	a	配慮が必要な子に関しては、発達支援センターのえぶりいさんに巡回をお願いし、相談、助言を受けている。
	職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。	有	園内研修・キャリアアップ研修	a	障害についての知識を得るために研修を受けている。配慮が必要な子の良いところを出し合いクラス同士や園内で関わり方によっての変化や成長について話し合い共有をしている。
保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。	有	教育委員会・発達支援センターからの各種チラシ・小松市子育て支援ガイドブック「ハグくむ」配布	b	チラシに関しては、指示及び必要に応じて個別配布をしている。あえて保護者全体に話をすることは無いが、必要な事例が出てきた場合伝えることもありうる。その子の個性であり、一人一人が大切にしていることは伝えるようにしたい。	
1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。	有	指導計画・園規則・自己評価のチェックリスト	a	早期保育(7:00~)から延長保育(~19:00)まで様々な時間帯の保育を利用する子どもの個々の状況を理解し、必要に応じて担当者間で申し送りをしながら一日の教育保育の確認をし合っている。	
家庭的でゆったりと過ごることができる環境を整えている。	有	指導計画・自己評価のチェックリスト	a	早期保育や延長保育は少人数で行い、特に3歳未満児は毎日同じ担当者の元で安心して過ごせるよう配慮している。また、マットやじゅうたんを各クラスに用意し、くつろげるようにしている。	
子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。	有	指導計画・園規則・自己評価のチェックリスト	a	一人一人の子どもの欲求に応じて抱いたり個別に話を聞くなどして情緒の安定を図っている。	

保育所版サービス内容評価調査票

評価項目	着眼点	実施の有無	着眼点に係る確認事項・書類	評点	コメント(評点の根拠やその他事業所独自の取り組み・工夫)
A-1-(2)-⑨ それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。	有	全体の計画・指導計画	a	家庭的な雰囲気になるよう意識し、朝夕の時間帯に異年齢で過ごしたり、以上児がクラスを行き来しながら好きな遊びを行ったりしている。
	子どもの在園時間や生活リズムに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。	有	17時以降の喫食を提供	a	授乳時間や離乳食の喫食時間を考慮し、一人一人に合わせて食事を提供している。また、長時間、延長保育を必要とした子どもにはおやつを提供している。
	子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。	有	玄関受け入れ時の健康チェック等・土曜保育の引継ぎ簿	a	毎日朝礼を実施し、子どもの欠席理由や保護者からの連絡事項についての情報共有を行っている。土曜日に出席する子どもの担任は引継ぎ簿に記入し日々の状態について知らせている。
	担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。	有	園規則・連絡帳	a	連絡帳や送迎時にコミュニケーションを密に取るようにしている。また、時によっては面談を実施している。場合によっては、担任の勤務時間にかかわらず保護者の迎えまで残って話をすることもある。
A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。	有	年間指導計画・月の指導計画・全体の計画	a	学校見学や小学校の先生との交流により就学への期待や自覚が芽生え、身の回りのことや生活習慣について振り返るようにしている。特に5歳児の計画には「10の姿」を見据えて立案している。
	子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。	有	小学校見学・全体の計画・指導計画	a	小学校見学や一年生との交流会等を通して学校生活に関心が持てるようにしている。日々の生活の中でハンカチの使用や排泄、食事等について念頭において指導している。
	保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。	有	保護者懇談会記録・ドキュメンテーション・クラスだより・小松市就学児相談のチラシ	a	保護者懇談会を行い、食事や就寝時間、言葉使い、文字などについて意見交換や情報の共有をする機会を設けた。
	保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。	有	「学びがつながる架け橋期の連携」の研修	a	小学校の先生と就学児検診前後と2月頃に面談等行い意見交換をしている。運動会行事等にお誘いして園の子どもたちや園の活動について理解を図った。
	施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。	有	認定こども園教育・保育要録	a	子どもの様子を詳しく伝えられるよう、毎年クラス担任が作成し、その後は主幹保育教諭、教頭、園長が確認している。
A-1-(3) 健康管理					
	子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。	有	感染症マニュアル・大和善隣館マニュアル・保健年間計画・連絡帳の健康表確認・朝の健康チェック	a	必要時、保護者と面談を行い、職員で共通理解している。看護師を中心に毎朝出欠状況を含め健康状態の把握に努めている。
	子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。	有	登園時や電話にて確認	a	保護者に直接確認するようにしている。

保育所版サービス内容評価調査票

評価項目	着眼点	実施の有無	着眼点に係る確認事項・書類	評点	コメント(評点の根拠やその他事業所独自の取り組み・工夫)
A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	子どもの保健に関する計画を作成している。	有	保健年間計画	a	保健年間計画を立て、実施している。
	一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。	有	健康チェック・児童票・一覧ファイル(各クラス)	a	各クラスに健康に関する一覧あり。適宜注意点を職員会や朝礼で行い、共通理解している。
	既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。	有	児童票 保護者からの連絡	a	予防接種を受けた場合は、連絡帳にて知らせてもらっている。
	保護者に対し、保育所の子どもに関する方針や取組を伝えている。	有	保健だより・重要事項説明書・ドキュメンテーション	a	ほけんだよりやドキュメンテーションでお知らせしている。
	職員に乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。	有	睡眠チェックの記録・未満児話し合いノート・朝礼ノート	a	5分おきに睡眠チェックを行っている。うつぶせ寝の危険性等を職員に伝えている。
	保護者に対し、乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する必要な情報提供をしている。	有	乳幼児突然死症候群(SIDS)の資料・ポスター掲示	a	未満児担任に乳幼児突然死症候群(SIDS)の資料を回覧して周知を図った。
A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。	有	児童票	a	児童票に記入し、職員で共有している。
	健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。	有	保健年間計画	a	健診結果をふまえ、保健年間計画の見直しを行っている。
	家庭での生活に生かされるよう保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。	有	健康カード	a	受診が必要な園児には、治療カードを渡し、受診を勧めている。
A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて	アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。	有	食物アレルギー対応マニュアル・保護者との面談	a	マニュアルをもとに、適切に対応している。また保護者、看護師、担任の3者で面談し、対応を確認。共通理解を行っている。
	慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。	有	保護者との面談	a	マニュアルをもとに、適切に対応している。また保護者、看護師、担任の3者で面談し、対応を確認。共通理解を行っている。
	保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。	有	連絡帳 面談	a	必要時、連絡帳や面談にて連絡を取り合っている。

保育所版サービス内容評価調査票

評価項目	着眼点	実施の有無	着眼点に係る確認事項・書類	評点	コメント(評点の根拠やその他事業所独自の取り組み・工夫)
アレルギーのある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	食事の提供等において、他の子どもたちの相違に配慮している。	有	食物アレルギー対応マニュアル	a	食事やおやつを提供するときは、アレルギーのある子どもの顔写真を個々に用意し、アレルギー児専用の食器、トレー、ネームプレートを使用する。 (トレーにはアレルギー児の名前、顔写真、除去食材を記載したシートを敷いて使用する)
	職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。	有	研修・看護師からの説明	a	研修への参加や看護師からの説明を行っている。
	他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。	有	入園のしおり	b	代替食を提供する理由を伝え、アレルギーについての理解を図っている。
A-1-(4) 食事					
A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。	有	食育年間計画・事業計画	a	発達段階に応じた豊かな食の経験を重ねることにより、一人一人の子どもの食を営む力を育み、豊かな心と体を育てる。また適切な援助がおこなわれるよう、食育計画を作成し保育の計画に位置づけ取組んでいる。
	子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。	有	食育年間計画	a	未満児は食事のスペースと遊びのスペースを分け落ち着いた雰囲気の中で食事が出来るように、また以上児はランチルームで食事のマナーを守りながらお友だちと楽しく食事が出来るように配慮している。
	子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。	有	食育年間計画	a	保育教諭と給食担当者が連携し、発達や体調に合わせて切り方や調理形態を変え援助している。
	食器の材質や形などに配慮している。	有	年齢や用途に合わせ、プラスチック製と陶器の食器を使用	a	温かいものを盛り付けた時、器のぬくもりが感じられるよう、また手のひらに馴染むように以上児は陶器の食器を使用している。未満児は食材をすくいあげしやすい形状のプラスチック製の食器を使用している。 また、2～3歳児のスプーンから箸への移行時には持ちやすい六角箸を使用している。
	個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。	有	食育年間計画	a	ランチルームにて配膳時に一人一人食べられる量を聞いたり、自分で食べられる量を理解して選べられるよう配慮している
	食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。	有	食育年間計画	a	・食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるように、子どもたちに興味や関心が持てる食育を行っている。
	子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。	有	食育年間計画	a	子どもが「食」について関心を深めるために、食材に触れる体験や収穫直後に野菜を味わうこと、また栄養と健康に関する体験など取組んでいる。
	子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。	有	食事だより・ドキュメンテーション	a	園で取組んだ食育活動の内容を食事だよりや、ドキュメンテーションなどで保護者に伝えている。野菜の種まき等の植え付けや草取り作業を祖父母や保護者と一緒に行う活動も行い理解を深められた。

保育所版サービス内容評価調査票

評価項目	着眼点	実施の有無	着眼点に係る確認事項・書類	評点	コメント(評点の根拠やその他事業所独自の取り組み・工夫)
A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して 食べることのできる食事を 提供している。	一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。	有	食品調査票・アレルギー児対応票	a	離乳食から幼児食への移行していく際は、保護者、保育教諭、給食担当者と話し合いながら、半々食や刻み食へと進めている。またアレルギー児には代替え食、除去食の提供を行っている。
	子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。	有	把握している	a	子どもの食べる量や好き嫌い、残食、食事の様子など、給食担当者が保育室やランチルームに行きその姿を把握している。
	残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。	有	給食日誌・事務日誌	a	残食があった際には、給食担当者が保育教諭にどんな点が残食に至ったのかを聞き、次回の献立に反映させている。
	季節感のある献立となるよう配慮している。	有	食育年間計画・年間活動計画・パンフレット・食事だより	a	柿の葉寿司作りや餅つき、お節料理、クリスマスや七夕などたくさんの楽しい食事を取入れている。
	地域の食文化や行事食などを取り入れている。	有	食育年間計画・パンフレット・食事だより	a	柿の葉作りやおせち料理、クリスマスや七夕など行事食を取入れている。
	調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。	有	給食担当者の食事中的見回り	a	給食担当者が保育室やランチルームへ行き、子どもたちと会話しながら食事の様子を見たりしている。
	衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。	有	給食衛生管理マニュアル	a	給食衛生管理マニュアルに基づき調理を行っている。
A-2 子育て支援					
A-2-(1) 家庭との緊密な連携					
A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させる ために、家庭との連携を 行っている。	連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。	有	連絡帳	a	3歳未満児クラスは毎日記入し、3歳以上児クラスは必要に応じて連絡帳の記入をしている。また、送迎時等に口頭で子どもの様子について伝え相互理解に努めている。
	保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。	有	組別懇談会・ドキュメンテーション・クラスだより	a	昨年度は組別懇談会の時期が遅かったため、今年度は時期を早くクラス内の状況をお知らせしつつ、教育保育の思いを伝えたり保護者の思いを聞く機会を作っている。
	様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるように支援をしている。	有	組別懇談会・保育参加・運動会や発表会等行事	a	行事参加への呼びかけをし、実際の子どもの様子を見ていただくことが、子どもの成長を知る確かな機会となっている。
	家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。	有	面談記録・個人記録・組別懇談記録・育児相談記録	a	内容や状況によって記録の用紙は異なるが記録に残している。

保育所版サービス内容評価調査票

評価項目	着眼点	実施の有無	着眼点に係る確認事項・書類	評点	コメント(評点の根拠やその他事業所独自の取り組み・工夫)
A-2-(2) 保護者等の支援					
A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。	有	玄関先での会話・連絡帳・入園のしおり	a	年度初めから保護者との信頼関係を第一に取り組んでいる。送迎時の玄関先での会話や連絡帳によるやり取りを大切にしている。
	保護者等からの相談に応じる体制がある。	有	重要事項説明書・相談マニュアル(相談に対する職員の対応について)	a	相談事には早期に応じられるよう対応している。
	保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。	有	個人面談	a	祖父母等の送迎により直接会えない保護者に対しては電話で話したり、保護者の差しさわりのない時間をお聞きして面談時間を決めたりしている。
	保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。	有	地域情報誌スマイル・子育て支援「きらきらぼし」	a	相談の内容によっては担任以外にも看護師や栄養士、主幹、教頭、園長も面接・相談に応じている。
	相談内容を適切に記録している。	有	相談記録受理簿・ケース記録	a	クラスごとに相談記録を残している。また、地域の親子の相談についても記録を残している。
	相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。	有	相談マニュアル(相談に対する職員の対応について)	a	相談内容によって職員が一人で対応することが難しい場合は、主幹や教頭、園長が同席することになっている。
A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。	有	個別記録・発達チェック・身体計測	a	日頃より子どもの様子を注意深く観察し、少しの変化にも気が付けるように、全職員が常に細心の注意を払っている
	虐待等権利侵害の可能性があると職員が感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。	有	虐待対応マニュアル	a	異常に気付けば速やかに園長等に報告し、確認の元、身体的な異常がある場合は写真に収める等行う
	虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。	有	虐待対応マニュアル	a	保護者の様子を踏まえて注意深く見守り、状況に応じて園が協力できることを行う。
	職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。	有	人権擁護のチェックリスト・職員会・園内研修・参考図書「選ばれる園になるための虐待対応」・復命書	a	職員全員が人権擁護のチェックリストをつけ、園内研修で子どもの人権について共通理解を持っている。虐待防止に関する研修を受講したり、参考図書の回覧を行ったりして、虐待の早期発見や対応についての理解を図っている。
児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。	有	重要事項説明書・園規則	a	児童相談所、小松市役所子育て支援課(くらし安心相談センター)と連携し、子の見守りのための情報交換を行っている。	

保育所版サービス内容評価調査票

評価項目	着眼点	実施の有無	着眼点に係る確認事項・書類	評点	コメント(評点の根拠やその他事業所独自の取り組み・工夫)
	虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。	有	虐待対応マニュアル	a	虐待の定義を始め、発見のポイントや子ども・家庭の様子を細かくマニュアル化している。
	マニュアルにもとづく職員研修を実施している。	有	虐待対応マニュアル・研修参加	a	職員会や園内研修で、虐待の早期発見や対応について理解を図り、共通理解を図っている。
A-3 保育の質の向上					
A-3-(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)					
A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り(自己評価)を行っている。	有	保育日誌	a	担任は毎日の保育実践を振り返り、その日のうちに保育日誌を記入している。
	自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。	有	園内研修・クラスだより・ドキュメンテーション	a	ドキュメンテーション等を通して、子どもの育ちや子ども主体の教育保育について考える機会を持っている。
	保育士等の自己評価を、定期的に行っている。	有	自己評価のチェックリスト・目標に向かって取り組むシート	a	法人で作成した自己評価チェックリストにより、年2回自己評価を行っている。今年度はそれに加え、目標の達成に向けてどのように取り組むかを各自が考え記入するシートの活用を試みている。
	保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。	有	自己評価のチェックリスト・園の自己評価・目標に向かって取り組むシート	a	各クラス、またはグループで自己評価をもとに話し合い園評価に反映させるなどして、園の資質向上につなげている。
	保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。	有	自己評価のチェックリスト・園の自己評価・目標に向かって取り組むシート	a	自己評価に基づき、保育の改善点や専門性の向上に努めている。
	保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。	有	園の自己評価	a	年度末に個人の自己評価や保護者アンケートを踏まえ、園全体の自己評価を行っている。